水 限りある貴重な資源

毎日の生活と生産活動を支える地下水

私たちの生活に欠かすことのできない水。
この水は、すべて地下から汲みあげられています。
炊事・洗たく・入浴などの生活用水はもちろん、工業用水・農業用水なども……。
富士山からの豊富な地下水は、私たちのまちを「工業都市」として発展させました。
このように「地下水」は、私たちの生活から切り離すことはできません。
８月１日から７日までは「水の週間」です。
これを機会に「地下水」について考えてみましょう。

工場用水管橋

地下水に海水が…

現在、市内での地下水汲みあげ量は、１日平均で上水道が8万5,600立方㍍、工業用水が104万2,000立方㍍です。

このうち、上水道については100㌫、工業用水については70㌫を地下水に頼っています。

市内の地下水は、通産省が昭和40年に実施した「地下水利用適正調査」によると、富士山水系(浅層・深層)、愛鷹山水系、富士川水系、潤井川水系の４つに分けられます。

各水系の地下水量は、右図のとおりです。

これらの水系による地下水の量は、１日になんと127万5,000立方㍍。

そして、この位なら汲みあげても安全だろうと思われる「安全揚水量」は、１日80万立方㍍とされています。

しかし、昭和30年後半からの高度経済成長に伴う工業の発展、都市化の進展は、ますます地下水の汲みあげを増大させました。

そのため、地下水の水圧が低下し海

市内の地下水系

地下水系	流動量 ㎥/	安全揚水量 ㎥/
富士川左岸	195,000-	136,000-
潤井川	121,000-	85,000-
北部富士山体Ⅰ	735,000-	514,000-
愛鷹山体	92,000-	64,000-
富士山体Ⅱ	132,000-	91,000-

勢子辻少年自然の家

旧勢子辻分校が研修施設に

青少年の野外活動など

今年の３月に廃校となった勢子辻分校が、青少年の宿泊施設として利用できるようになりました。

名前も富士市立勢子辻青少年の家と変わりました。

勢子辻青少年の家は、愛鷹山のふもと、標高700㍍に位置し、自然環境に恵まれているので、研修や野外活動にもってこいです。

宿泊人員は、50人から60人位です。

使用料は、市内の青少年が１泊20円、大人が80円です。

食事は、自炊になります。

申込み先は、市立少年自然の家です。　☎35－1697

水が逆流する「地下水障害」が発生しました。

昭和35年、田子浦港附近に塩水化した井戸が発見され、それ以後、年々拡大し、昭和48年ころには県道・沼津線の北側まで、塩水化の汚染地域が広がっていきました。

工業用水を水源転換

こうした、地下水障害防止に対応するため、昭和42年「岳南地域地下水利用対策協議会」が設立され、地下水の自主規制が行われました。

また、昭和46年には県条例によって、法的な規制も受けるようになりました。

昭和47年に県が行った立入調査によると、市内の地下水採取量は1日140万立方㍍で、安全揚水量の80万立方㍍を60万立方㍍も上回っていることがわかりました。

この地下水過剰汲みあげを減らす方法として、日本軽金属富士川発電所の放水を利用した「東駿河湾工業用水道」への水源転換が行われることとなりました。

第一次転換は、昭和50年2月に57社26万立方㍍が行われました。

それ以後、現在までに86社31万立方㍍の水源転換が行われ、同量の地下水が削減されました。

こうした水源の転換計画は、全国でも初めての試みで、実績は高く評価されています。

水源転換計画により約31万立方㍍の地下水が削減された結果、地下水位は除々に上昇しはじめ、また塩水化も一応縮少の傾向をみせはじめました。

しかし、依然として1日約100万立方㍍の地下水が汲みあげられているため、今後さらに地下水の削減が検討されていきます。

また、現在設置されている59ヵ所の塩水化観測井戸と4ヵ所の地下水位観測井戸によって監視を続け、さらに監視体制を強化していきます。

今後、各井戸に「水量測定器」を設置し、地下水の汲みあげ量を正確に把握していきます。

合理的な利用を

生活水準の向上や産業経済の進展は、水需要をますます増大させます。

富士市では、「水資源」の大部分を地下水に頼っていますが、地下水は決して無尽蔵にあるものではありません。無計画に利用すれば、再び先のような「地下水障害」が引き起こされます。

私たちが使っている上水道、すなわち「生活用水」は、100㍍地下水を利用しているのが現状です。

しかも、「地下水源」に代わるダム等の建設は、建設適地、工事費等の関係で困難な状況にあります。

そこで、私たち一人ひとりが節水をはじめ、合理的な水の利用に務めなければなりません。水は、「有限で貴重な資源」です。

江戸時代末期のころの地図を見ながら、当時の村の状況や川の様子を説明する井出源一郎さん（81歳）
（今泉水の上町）

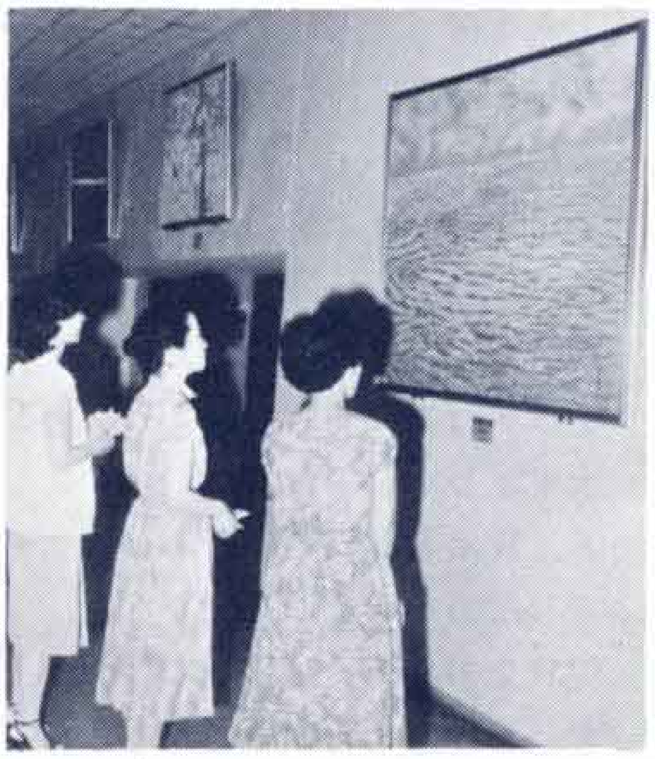
豊富な湧水が

田宿川は、最近、湧水が増えてきたね。一時期は水が減って干上がった状態だった。

昔、ここはきれいな水がたくさん流れていて、田へ水を引いたり、生活用水としていたんだよ。多分、湧水が豊富なため、土手をつくり、川として、生活するために使ったのでは……。

子どものころは、よくここで泳いだり、魚をとったりしたもんだ。

中央図書館の下　田宿川



吉原市民会館ギャラリー

吉原市民会館 富士文化センター に市民ギャラリー

日本画と洋画38点を展示

吉原市民会館と富士文化センターのロビーに、市民会館ギャラリーができました。

吉原市民会館には、日本画17点、富士文化センターには、洋画21点が展示されました。

展示されている作品は、市民の皆さんが応募した作品と市美術展の入賞作品で、いずれも力作ばかりです。

作品の展示期間は1年間です。

市民会館の荻野館長は、「両館に市民会館ギャラリーができたことで、今までとは違った楽しみ方ができると思います。また、市民文化を高めるのにも役立つのでは……」と話していました。